



鈴木 文子
(公明)



防災対策

被災中、妊産婦や新生児等の母子支援ができる体制の確保を目的に、県助産師会と協定を締結しているが、具体的な支援方法を伺う。

派遣要請を受けた助産師が、救護所・避難所に出向いて健康相談、心身のケア、分娩の介助や分娩後の処置などに対応するほか、在宅の妊産婦には家庭訪問を行うこととなる。出産のため里帰りされている方に対しても、家庭訪問を実施する等の支援を想定している。

子育て支援

国や自治体が支援に努めるべき対象としてヤングケアラーが初めて法制化された。支援の強化を期待するが今後の取り組みを伺う。

市内で子どもの居場所づくり等の活動を行う団体等が一堂に会する連絡会を令和6年7月に初めて開催し、ヤングケアラーの支援について改めて周知するほか、高校生年代へのアプローチとして市内の高等学校へ訪問し、市のヤングケアラー支援の取り組みについて周知していく予定である。



他の質問事項

各種ワフチン接種支援



村田 耕一
(公明)



避難所にポータブル水再生システムの導入を

断水時避難所で100Lの種水を水処理自律制御技術で循環させ約100回のシャワー入浴が可能となる水再生システムの導入ができないか。

水再生システムは、新たな技術を活用した高額の設備であることから、すぐに導入することは難しい状況であるが、国の動向を注視しつつ、民間温浴施設等との協定の締結など、被災者の入浴機会の確保に向けた方策について、研究したいと考えている。

エンディングプランサポーター事業の導入を

身寄りのない高齢者の終活支援として生前に親族確認や火葬納骨の契約を行い、その方の希望に沿った形を実現し不安を解消できないか。

全国的に高齢者単身世帯数が増加しており、国はガイドラインを作成した。一部の大都市では、葬儀や納骨などを葬儀社に生前契約する費用預託制度創設や窓口を開設している。本市の身元引受人のないご遺体の状況を見ながら、引き続き調査研究していく。



他の質問事項

新庁舎建設地を北田町とした場合の引越回数



服部 正平
(日本共産党議員団)



幼児期における医療体制の充実を

小児医療体制は万全とは言えない。曜日に関係なく24時間、即医師の相談が受けられるアプリの導入の可否を伺う。

医療相談アプリの導入に関しては、今後は必要経費や先行的に導入した伊豆市の状況を踏まえつつ、三島市医師会のご意見を聞く中で、調査研究していきたいと考えている。



佐野楽寿寮廃止後の施設の利活用

市内唯一の養護老人ホームの今後の活用は、市内で住み続けたい方、民間施設入所困難者の生活に見合う施設とすべきではないか。

老人福祉法では、市が設置する施設に入所させるか、または市以外が設置する施設に入所させ委託するかのいずれかで対応する規定である。本市の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画では、近隣と同じ機能の施設整備計画はなく、廃止にあたり入所者に対し丁寧な説明し、近隣施設を案内する。



甲斐 幸博
(緑水会)



子どもの育成

子どもを取り巻く環境や課題は複雑化している。学校と地域が課題等を共有することが重要であるが、地域学校協働本部の活動を伺う。

地域学校協働本部の主な活動として登下校の見守り、放課後の学習支援、本の読み聞かせ、職業体験訓練、通学合宿事業等を行っており、地域学校協働本部の強みである多様な人たちとの緩やかなネットワークを生かし、学校との連携・協働に取り組んでいる。

自治会・子ども会の課題や問題点

行政と地域でつないできた様々な地域活動が、時代の流れで変化し縮小している。課題を踏まえ、子ども会連合会の取り組みを伺う。

少子化等により子ども会の会員数が減少し、子ども会連合会の縮小傾向がみられるとともに、共働き世帯が増えていることから役員の手不足している。対策として自治会連合会の会議やイベント開催時に保護者と子ども双方への周知に努めている。



他の質問事項

スポーツの推進



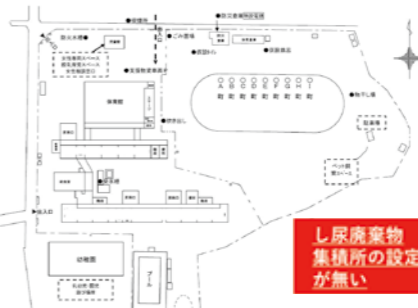
秋山 恭亮
(改革みしま)



災害時の避難所における廃棄物の集積方法

避難所には、し尿廃棄物を意識したごみ集積所の設定がない。大量発生が想定されるが、し尿廃棄物集積所を設定してはどうか。

避難所基本運営マニュアルでは学校ごとにごみ集積所を事前に定めてある。能登半島地震では、し尿等の廃棄物は一般廃棄物とは別の場所に集積し、におい対策を取っていたことから、現在のごみ集積所がし尿等の廃棄物集積所としても適切か、改めて確認を行う。



避難所・運営本部のネット環境の構築

災害時ネット環境は避難所運営に必須となる。指定避難所の運営本部のネット環境の整備に取り組んでほしい。

指定避難所である市立小中学校のネットワーク環境を避難所の運営等に供することは、校内ネットワークの安全性の確保が困難なため、要望に沿うことはできないが、独立回線を敷設することに関しては、今後どのような方法があるのか調査研究を行う。

他の質問事項

伊豆ファン倶楽部の会員数・店舗数の拡充



石井 真人
(覚悟の会)



市長のJ-R東海との南北自由通路の交渉経緯

直近5年間で、J-R東海への公式訪問は課長と係員での2回のみ。なぜ市長は公式に訪問せず、プライベートのみの交流としたのか。

三島市長の立場でのJ-R東海の役員と面談する機会に加え、美しい伊豆創造センター等の団体会長としての市長とは異なる立場での面談、懇意にしている役員との電話での情報交換など、三島市長の公務以外の機会も含め、三島駅周辺の開発の進捗状況や南北自由通路に対する市民の期待をお伝えしている。



生成AIを用いた職員業務の効率向上可能性

議会の会議録、予算書、決算書、各種計画、条例、マニュアル等を生成AIに学習させて活用し、業務の生産性向上を図ってはどうか。

情報資産をAIに学習させ、有益な情報を瞬時に抽出できる業務環境は、職員がより創造的、戦略的な業務に注力でき、職員の働き方改革にもつながると認識している。導入効果を得られる利用場面を増やし、組織全体でのAI活用に向けて検討する。

他の質問事項

伊豆ファン倶楽部・事業費9千万円の見直し